

カウンセリングのポイント と 施術トーク

(4.3)

カウンセリングで注意しているポイントと、姿勢施術として骨格調整施術をする流れでイーファスを使う時の施術トークをご紹介しますので、先生の治療院に合わせた施術トークを検討される際の参考にしてください。

目次

ヒアリングで注意している項目（概要）	2
▪ 患者様に良くしている「話」	4
初診のトークと流れ	7
▪ 挨拶と施術前の姿勢撮影	7
▪ 問診開始	7
▪ 施術の概要を説明する	8
▪ 姿勢分析について	9
▪ 動作検査を開始する時	10
▪ 動作検査の直後に行う説明	10
▪ 骨盤検査	11
▪ 対象筋画面の説明	12
▪ 小指または手首による簡単調整	13
▪ 骨盤ケア画面で検査の大切さと効果を体感していただく時は	13
▪ 緊張緩和（FA-3）の施術前	14
▪ 緊張緩和 FA3 中の参考トーク	15
▪ 緊張緩和の施術後	15
▪ 緊張緩和（FA3）後の Before After	16
▪ アクチベータをするとき	17
▪ 施術後の Before After の注意点	17
▪ 姿勢評価をするときの説明	18
セルフケアとしてアドバイスしている話	19
〈補足〉心のセルフケアで参考にしている資料	20

はじめに

ヒアリングで注意している項目（概要）

1.症状をどの程度改善したいと考えているのか、どの程度改善すると思っているのか？

表面意識で「治りたい」と思っているも、他院で受けた説明によって、潜在意識では「治らないもの」と心に刻印しているケースがあり、そうしたケースでは治りにくくなっています。

改善する見込みのある場合は、新たに説明し直すことによって、そうした心の悪い刻印を消してあげる必要があると考えています。

また症状によって、「完治する症状」と、完全に消失できるものではなく、そもそも「より良く管理していく症状」に分けられますが、いずれに該当する症状なのかを説明しておくことは大切です。

例えば、「肩こり」は施術によって軽快しますが、環境や体の使い方が変わらなければ、完全に消失し続けることはできないので、疲れが溜まらないように「良く管理していく症状」になります。

施術を正しく評価していただくためにも、施術のゴール（目的）は患者様と共有しておく必要があると考えています。

2.原因を認識しているか？

外傷以外のほとんどの症状の場合、生活習慣の中に原因が隠れているので、今までよりも、体にとって良い使い方や管理をしてもらうために、生活習慣の改善や工夫ができる点を一緒に探すようにしています。

患者様自身が明確な原因を思いつかれない時は、加齢による退行性変化か、普段の生活習慣（健康習慣）に原因があると考えています。

また、原因や解決策（施術方法）については、他院で説明された内容と同じ説明にならないように注意して、必ず異なる視点で説明するようにしています。

これは、施術に取り組む姿勢を仕切り直してもらい、新たに希望を持って施術を受けていただくためです。

原因の説明としては、「体の使いクセ」を根本原因として、全身の筋肉や関節における協調性（つながり）や身体重心の安定性が悪くなっていることを説明することが多いです。

そして、その解説策として「イーファスの運動検査」と「隠れた原因部分（筋肉・関節）の分析・特定」が有効であると説明しています。

3.痛みの程度だけではなく、日常生活上の支障内容を詳しく聞き取る

強い症状や長期に患っている症状の場合、治るまでに「良くなったり、少し戻ったり」と改善途中に症状の停滞感が生じやすいので、痛みの程度（スケール）だけでなく、日常生活上の支障状況を詳しく聞き取っておくと、その改善具合による評価によって、痛みが残存していても、改善してることを認識されます。

痛みの程度で評価しようとする、「痛みがあるか」「痛みがなくなったか」といった「0」か「100」かの評価をしてしまいがちになります。

4.目的や目標を持っているか？

具体的な目的を持っている方が改善に向けて取り組む姿勢が強くなるので、「〇〇〇ができるように…」と具体的な目的や目標を共有するようにしています。

目的を明確にするほど、精神的にも治癒力の向上につながります。

5.最近の精神ストレスについて

心のケアとして、心と体の相関関係を説明し、治癒力を低下させないために、「穏やかな心の状態や優しい心の保持」を心掛けることが大切であることをアドバイスしています。

↓

まず最近の「悩み事」や「心配事」がないかを聞き取るようにしています。

ある時は、一点に縛られた状態が長く続かないようにアドバイスするように心がけます。

悩み事などがあって、なかなか良い心の状態を作れない人には、「心は相反する二つのことを同時に考えることはできない」という話をしてあげて、良い思いや行動を重ねるようにアドバイスしています。

※「ストレスフリーの幸福論（幸福の科学出版）」の内容は参考になります。

↓

心のケアの基本は、「感謝の心」「笑顔の生活」「与える愛の実践」をアドバイスし、特に感謝については、普段当たり前と思っていることの中に、与えられていることを探すようにアドバイスしています。

患者さんには、別紙「患者配布用セルフケア資料」をお渡ししています。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 患者様に良くしている「話」

患者さんに良くしている話を挙げておきますので参考にしてください。

①後天的な要素の話

最終的に、どのような肉体が出来上がるかは、後天的な要素の影響が半分以上あります。車の使い方や手入れの仕方のよし悪しによって、車が故障したり、しなかったりします。たとえ故障しやすい車であっても、十分に点検しながら乗れば、あまり故障しないで済むように、病気になりやすい遺伝子をもった肉体であったとしても、十分に気を付ければ病気にならないこともあるのです。

②「色心不二」の話

精神的なストレスによって「胃潰瘍」になることや、体が辛い時は「心の平静」が保ちにくくなることを例に挙げて、心が病めば肉体も病気になり、逆に、肉体が病むと心の方も悪くなってくることを説明し、人間は精神が物質化する存在であることを理解してもらうようにしています。

↓

普通は病気の姿として自己中心的になりがちですが、心と体の相互関係を利用して、自己中心的な考え方とは反対の自己像を創り出していくことが大事なのです。

すぐに取り組めることとしては、「感謝の気持ち」を持ち、言葉に出して言うことです。

できれば「人の苦しみや悲しみを和らげてあげるという気持ち」を持つことで、さらに治癒力は強く働くようになります。

③「新陳代謝」の話

人間の体は、流れる川のように日々変化しています。

新陳代謝によって、細胞は1年ほどですべて生まれ変わっています。

一部の筋肉に至っては45日程度で入れ替わっています。

「自分の治癒力を信じてください。」

「自分の肉体は工場なのだ。毎日、細胞を作っている。自分の肉体は、毎日入れ替わっている。毎日、新しく作り替えているものなのだ」という強い思いを発してください。

そのためのポイントは、些細な事、小さなことにも、喜び（感謝）を感じるようにすることです。

④「自然治癒力」の話

切り傷があっても、止血して安静にしていれば皮膚が再生するのは、本来備わっている『自然治癒力』の働きであって、施術においても、いかに治癒力が働きやすい状況を作ってあげるかを大切にしています。

体を良くしていくのは、あなた自身の治癒力や免疫力なのです。

鍼灸、マッサージ、電気治療、薬、様々な方法がありますが、すべての治療行為は、あなた自身に備わっている『治癒力』『免疫力』をより良く働かせるためのきっかけなのです。

あなた自身が持っている治癒力を働きやすいようにすることが早期改善のポイントなので、体と心の両面のケアはとても大切なのです。

⑤「人間関係の不調和が影響している」話

調子が悪くなる前に何か事件がなかったかどうか、よく考えていただきます。

そして、人間関係において不調和がある場合、その相手との間で、現在修復することができるものは修復するようにアドバイスしています。

また自分の非の部分については心のなかで詫びること。そして、相手の幸福を祈ることをお勧めしています。修復が可能でないものについては、心のなかで祈ってください。

また実際にはないと思うのですが、自分に全く非がないと思っておられる不調和な関係の場合は、完全な人間は自分も含めて一人もいないということから、まず心の中で「相手を許す」思いを持つことを勧めています。

⑥「足ることを知る（感謝）」の話

生かされている自分に気づくことで、不幸感覚が薄くなっていき、病気も治りやすくなりますので、日常の中の、普段当たり前になっていることの中に感謝を探るようにアドバイスしています。特にご両親への感謝を試みるのが良いようです。

アドバイスのポイントは、「受け止め方」や「考え方」をいかに転換していただけるかを考えて接しています。

⑦「使いクセ」の話

良好な体の状態に保つためには、全身の筋肉や関節がしなやかに連動していて、重心が安定していることが重要です。『使いクセ』が強くなりすぎてしまうと、部分的に無理な動きをする筋肉や関節が生じ、身体重心が不安定になってしまいます。その不安定さは、さらに筋肉や関節や神経の緊張を高めるという悪循環を起こし、治りにくい原因になっています。

日常生活で生じているカラダの使いクセは、動きの不調和として現れているので、動作検査が重要になるのです。動作検査は、隠れている不調な筋肉や関節を探すために行っていると説明しています。

※レントゲンや MRI 検査は静止状態における「形の検査」であって、使いクセの検査ではないことも説明しています。

※動作検査を始めて受けていただいた方には、直後に必ず説明しています。

⑧「イーファスの独自性と専門性」の話

一般的なマッサージとの違いとして、イーファスの検査は、一人一人の体に現れている『カラダの使いクセ』をみつけられること。そして、不調の原因となっている施術に必要な筋肉や関節を 1/194 万の分析力で特定していることを説明しています。

病院のレントゲン検査などによって、歪みが原因で完治しないと診断されている方には、見た目のゆがみがあったとしても、筋肉や関節の動きの協調性を整えることで、症状は十分改善する可能性があることを説明しています。

人生の途中における事故や環境における体の使い方によって生じている歪みの場合、適応した結果としての「歪み」であって、その人にとっては都合の良い歪みであるケースもあることを説明しています。ただし症状が現れている場合は、歪みが強くなっている証明なので、強くなりすぎている部分を整える必要があることを説明しています。

なお、体の歪み（傾向）は疲れが溜まると強くなり、将来のリスクにもなるので、良く管理する必要があることも補足しておきます。

[〈目次に戻る〉](#)

初診のトークと流れ

■ 挨拶と施術前の姿勢撮影

こんにちは〇〇です。よろしくお願いいたします。
早期に改善していただくために、根本原因を分析しますので、姿勢も分析させていただきます。

〈ポイント〉

初めて来院される患者さんは不安な心を持っておられるので、
「患者さん自身のために必要である」という説明を補足してください。

■ 問診開始

では詳しくお体の状況をお伺いさせていただきます。
当院の施術はご自身の自然治癒力を高めていきますので、施術には一見関係なさそうだと思うようなことも含めて、最近の体の変化（状態）を詳しく教えてください。

〈ポイント〉

2回目以降に施術効果を実感していただけるポイントになるので、詳しいヒアリングをしてください。

①症状に対しては、**どこが、どんなときに、どんなふうに。**

さらに**日常生活で支障をきたしている動作**を詳しく聞きとります。

②健康に関する**将来の不安**や症状が**改善したらしたいこと**なども聞いておきます。

③他の医療機関で説明されていた内容（原因や予後）は必ず聞いておきます。

「もう治らない」と説明されている場合、潜在意識において、諦めや、失意の状態であったりして治癒力が働きにくくなっています。

また他院で施術を受けておられた患者さんには、原因や施術方法を説明する際、他の医療機関と**同じ内容にならないように注意**します。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 施術の概要を説明する

本日受けていただく施術について、

この iPad はインターネットでイーファスというエキスパート AI の検査システムにつながっています。

1. まずシステム画面に従って現在の体の動きを入力します。
2. 全身の筋肉や関節の動きのアンバランスをエキスパート AI が分析します。
3. 症状の原因部分をエキスパート AI が特定します。
4. 原因部分には当院オリジナルの治療法をさせていただき流れで行わせていただきます。

施術方法は体に合った方法を選択しますのでどうぞ安心して受けてください。

施術ではいかに自然治癒力を高められるかがポイントになり、まず身体重心の安定性を高めることが重要になります。

検査が重要な理由でもあるのですが、普段「姿勢」や「動き」は約 350 の筋肉や 206 の関節が連動（協調）して行われているので、アンバランスの原因部分の分析はとても複雑です。

なのでシステムの検査と分析によって、およそ 194 万通りのアンバランスの中から〇〇さんのアンバランスを分析して原因となっている筋肉や関節を特定させていただきます。

このアンバランスの分析は、レントゲンや CT などの静止した状態の画像検査では分析できないので、動きを詳細に分析する必要があります。

アンバランスが改善されてくると、体の様々な機能が向上してきます。

- ・ 筋肉や関節の動きがしなやかになる
- ・ 血行動態が良くなる
- ・ 自律神経の働きが良くなる
- ・ 姿勢が綺麗になる

いずれも、治癒力（修復力）を高める条件なのです。

〈ポイント〉

イーファスの動作検査は、お一人お一人に存在している「体の使いクセ」を分析しているということなので、**他との違い**として「体の使いクセの分析」や「動きのクセを調整する」という言葉で独自性や専門性を説明してください。

なお、このタイミングで [小指チェック] などの実施は有効で、「体のつながり（連動）の不思議」や「検査する意義」、「全身調整の必要性」を納得していただきやすくなります。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 姿勢分析について

初診時の施術前の姿勢撮影は必ず行ってください。

そして、当日もしくは数回目の施術後の姿勢写真と合成比較をして、施術効果の確認や定期的な施術の必要性を説明してください。

不良姿勢は、時間をかけて生じているものなので、姿勢を良い状態でキープするためには、「定期的に管理するもの」であるとして、計画的な施術を受ける必要性を納得していただくようにしてください。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 動作検査を開始する時

では、しっかりと体のクセを分析して、原因部分を特定するために動きの検査を受けていただきます。

検査する動きは画面を見ていただきながら、口頭でも誘導していきます。

痛みや動きにくさを探していますが、なければ**動きやすい方**を探していきます。

ゆっくりと動かして、最後に2秒ほど止めたときの感じを教えてください。

〈ポイント〉

- ・誘導するときは、術者も一緒に動作しながら誘導するとわかりやすくなります。
- ・一般的なマッサージとの違いになることなので、「イーファス施術は、一人一人の体に現れている『カラダの使いクセ』をみつけられること。そして、不調の原因となっている筋肉や関節を特定し、重心を安定させ治癒力を高められることであることを説明してください。
- ・左右差などの確認された直後に小指チェックをして、全身のバランス施術の重要性や施術に対する期待感を高めたりすることもあります。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 動作検査の直後に行う説明

今までこんな検査を受けたことがありましたか？

レントゲン検査やMRI検査は静止状態の画像検査ですが、使いクセはそもそも普段の動かし方の蓄積によるので、このように「動き」を丁寧に検査することで、使いクセの状態がわかるのですよ。

また、**今動かしにくい方向があったことが重要です。**

本来は、左右や前後の動かし感覚は釣り合っていることが良い状態なのですが、差があることが使いクセが強くなりすぎていて良くない状態・身体重心の不安定性を現わしているのです。

施術途中で改善具合を確認しますので、しにくかった方向を覚えておいてくださいね。

釣り合いが取れるということは、重心が安定して、筋肉や関節がバランス良く働きだしたということで、つまり治癒力がより良く働きだしたということなのです。

〈ポイント〉

施術の最終目的は症状の消失ですが、その前提（条件）として体の治癒力を働きやすくすることです。長期に患っている症状のときほど、隠れた原因である使いクセをまず整える。検証動作を改善させる（釣合わせる）ができれば、治癒力は働きやすくなり、体が良くなる方向へ向かっていくということを理解してもらいましょう。

イーファスを始めて受けられる方は、他では絶対に受けたことがない動作検査です。

「こんな検査を受けたことがありますか？」という問いかけは、独自の施術である印象付けにもなり、患者さんが口コミをされる際の「お勧め理由」にもなります。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 骨盤検査

【骨盤検査を始めるとき】

- ・体に合った最適な施術をするために、さらに検査を重ねると説明しています。
- ・「施術の良し悪しを、実際に体に聞く検査です」と説明することもあります。

【骨盤検査のポイント】

- ・徒手で方向を作り、すぐに動きをしてもらって評価するよりも、方向を作ったまま、一呼吸（1.2）してもらってから動きを確認の方が評価しやすくなります。
- ・動きやすさを感じにくい時は、反対の検査を行って動きにくさを感じてもらおうと、動きやすい方向の動きやすさを感じやすくなります。

【骨盤検査の途中、動きやすく変化することを確認されたとき】

検査動作によって、動きが改善するのは、調整によって「治癒力が働きやすく」なっていることを説明してください。

なお検査も施術になるので、出来る限り良い方向で終わるようにしてください。

※骨盤検査は、患者にとって「施術に対する安心感や信頼性を高める」重要な工程になっています。

【骨盤検査直後にアクチベータを行います】

患者座位のまま、赤色の骨格調整画面（リバース画面）の矢印に2～3回ずつ程度アクチベータで刺激してから、動作検査で動かしにくかった座位の前額・水平面動作を再確認してもらいます

検証動作が動きやすくなることを確認されたときは、正しい方向を体に誘導することで、治療力が働きやすくなっているということを説明しています。

※体の治療力を働かせることが、施術の大切なポイントであるという認識は、一般的なマッサージとの違いを感じてもらうことにつながっています。

【アクチベータの説明】

患者さんに行く前に、術者の手にアクチベータをして見せて、「反射を利用して、体自体に正しい方向性を誘導させる施術器具です」と説明しています。

[〈目次に戻る〉](#)

▪ 対象筋画面の説明

【対象画面の説明】

骨盤検査の後は、対象筋画面は簡単に見てもらいましょう。

「黄色の部分は、症状の原因になっている隠れた部分です」

「症状の箇所以外にマーカーが入っている部分は、症状に悪影響を与えている隠れた根本原因なのです」と説明しています。

時には、画面を見られた患者さん自身が、主訴ではないものの普段疲れを感じている箇所が表示されていることに驚かれることがあります。

骨格調整画面を見ていただくときは、「矢印は、体の治療力を高めるために、調整する正しい方向を示している」と説明しています。

- 小指または手首による簡単調整

「手技を始める前に、体の中心を整えますね」と説明し、患者は座位のまま、頸部の回旋（小指）・側屈（手首）に対して、動きやすいように調整することもあります。

※患者さんによっては変化を感じにくい場合もあります。

【実施時のポイント】

- ・小指または手首に方向を作り、すぐに動きをしてもらって評価するよりも、方向を作ったまま、一呼吸（1.2）してもらってから動きを確認する方が評価しやすくなります。
- ・動きやすさを感じにくい時は、反対の検査を行って動きにくさを感じてもらおうと、動きやすさを感じやすくなります。

【主訴の変化を確認できるとき】

この時点でも主訴の変化を確認できる場合が多いので、ぜひ確認してみてください
検査や説明しかしていませんが、主訴に対して良い変化が得られることが多く、良い変化が得られたときは、その後の施術効果が一段と高まります。

以上が通常の検査の流れになり、その後患者に合わせた施術を行っています。

施術はイーファスの画面以外にも必要と思われる施術を行ってください。

少し手間がかかるため、初診は時間を取りますが、一般的なマッサージとしっかり差別化し、自分の体に合ったオーダーメイドの施術であるという印象を持っていただくことは自費施術成功の秘訣です。

[〈目次に戻る〉](#)

- 骨盤ケア画面で検査の大切さと効果を体感していただく時は

この画面は、検査・分析の結果、ご自身でできる骨盤の調整（ケア）画面になります。
実際に行ってみて、効果を体感してみましょう。

この画面は施術後に閲覧していただくことができますので、ご自宅で朝晩していただくと良い状態が定着していきます。

視聴方法は後から説明しますね。 ※セルフケア配信

<ポイント>

評価しにくいときは、クルリンパも追加すると評価しやすくなります。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 緊張緩和（FA-3）の施術前

では、ベッドに上向きで横になってください。
まず自律神経機能の緊張を緩和していきます。

↓

<ベッドに寝てから>

症状がある場合、神経機能が正常に働いていないことが多いのです。
身体は不調になってくると、防御状態（バリア）として神経を高ぶらせている状態になっています。身体を護るといってそうした状態になっているのですが、同時に神経が興奮気味になり、元々の**治療力が半減**していたり、**施術効果を半減**させてしまったり、ご自身が体のために良いことをしても、**上手く効果しない状況**になっています。
一般的な治療では、まずこの部分を見逃していることが多いのですよ。

↓

※仰臥位・立膝で左右に膝倒しをしてしにくい方があれば覚えておいてもらう。

または、肩が床から上がっている方がないか感じてもらってください。

※仰臥位で膝を立てた左右倒しで左右差があるときは、緊張緩和で改善しますので、「体幹のねじれを調整します」と言って始め、終わってから検証する流れが良いです。

↓

では、頭のとっぺんから足先まで完全に力を抜いてみてください。（1分程度）

↓

では過度な緊張を緩和していきます。

ゆっくりとした呼吸を続け、私が触る時に反応せず、脱力しててください。

できれば吸う息よりも吐く息を少し長めにしてください。

楽な自分のペースで穏やかな呼吸をお願いします。

〈ポイント〉

まずは自然な呼吸で力を抜いてもらい。

徐々にゆっくりとした穏やかな呼吸を誘導しましょう。

施術中、ゆったりとした口調で、穏やかな呼吸誘導を途中何度も行ってください。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 緊張緩和 FA3 中の参考トーク

一般の方で神経の緊張を完全に緩和させられる人は殆どおられません。

特別な訓練をした方で、仙人のような修行している方くらいなんですよ。

本日の施術の後、神経機能も正常に働くようになり、体は好転していきますが、今していただいている穏やかな呼吸は、帰ってからも意識して続けてください。

穏やかな呼吸を無意識にするコツは、穏やかな気持ちで生活することです。

いつもより、**「優しい気持ちで人に接し」「優しい言葉」を心がけることがポイント**です。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 緊張緩和の施術後

今「ふわっ」とした感じが緊張緩和（リセット）した感覚です。

↓

仰臥位・左右膝倒しのしにくい方の改善、または、肩が床から上がっている感じの消失を**確認してもらってください。**

↓

身体の状態が悪いときは、常に緊張していて、正常な状態に戻れなくなっているのです。自律神経の緊張も良くなれなかった原因なのですよ。

これから一段と治癒力が働き始めます。

〈ポイント〉

神経の過度な緊張は症状が良くならなかった根本原因の一つであったことを説明してください。

■ 緊張緩和（FA3）後の Before After

では神経機能を正常化しましたので、起き上がってベッドに座ってみてください。
先ほど動作検査でしにくかった動作を確認してみましょう。
症状を改善するためには、体の前後や左右のバランスを改善することが重要です。
少し動かしやすくなっていると思いますよ。

〈ポイント〉

確認前に座位のアクチベータをすると、より変化が期待できます。

↓

まず対象筋画面左上の検証動作の水平面と前額面動作の改善具合を確認します。
また、主訴の変化も確認してください。

完全に症状が消失していないことも当然ありますが、患者さんには改善している部分は
体自体が改善に向けて働きだしたことを説明してください。

今動きが変化したということは、神経機能が正常化したということなのです。
神経機能の正常化によって、この後治癒力がより良く働いて快方に向かっていきます。

・検証動作（水平面・前額面）をチェックした時に、しにくかった方向が逆転していること
がありますが問題ありません。アンバランスを戻している状態なので問題ないことを
伝えてあげてください。

↓

主訴の動きがあれば改善をチェックしてください。

症状や体の状態によって、必ず「0」になるとは限りませんが、「良くならなかった内容」より
も「良くなっている内容」にフォーカスしていただくようにして、「良くなっていく」と
いうことを理解し、安心していただくように説明してください。

[〈目次に戻る〉](#)

- アクチベータをするとき

AI が特定したポイントに刺激を入れていきます。
バチンと音がしますが、痛くないので安心してください。
こうした刺激に対する「体の反射」を利用した施術で、体自体に「良くなる方向」を教えているような施術です。

〈ポイント〉

アクチベータを他の医療機関で経験したことがある方がおられましたら、次のように説明してください。



「同じ器具を使って治療されていることもありますが、当院では動作検査の上でお体に合ったポイント进行分析して行っているため、その点が違いであり、検査結果に基づいて行っている点がこだわりの点なのです。」

[〈目次に戻る〉](#)

- 施術後の Before After の注意点

では本日の施術を完了しましたので、起き上がってベッドに座ってみてください。
先ほど動作検査でしにくかった動作や主訴を確認してみましょう。
しやすくなっていると思いますよ。



※改善度が大きい時ほど、患者さんは嬉しくなり施術直後から動きがちになります。
症状が変化しても、体の状態としてはまだ回復していない状態が多いので、施術で良くなったときほど、帰ってからの安静指導が大切であることをしっかりと理解していただきますよう。

■ 姿勢評価をするときの説明

姿勢が改善されていると思うので、確認してみましょう。

施術前のこうした不良姿勢では、重心が●●な傾向があるので、特に●●や●●に負担がかかっていたようです。不良姿勢は知らず知らずに現れてきますが、症状が現れやすく、治りにくい根本原因になっているのです。

今綺麗に姿勢を整えたことで、体は無理な負担から開放され、自然治癒力も強く働くようになり、快方に向かっていきますので安心してください。

この後、この良いバランスや姿勢を定着するようにしていけば、良くなっていきますよ。

<ポイント>

・改善が見られた部分を指し示し、合成比較で確認する悪い姿勢部分が、症状の原因（どのような体への負担）になっていたことを説明してください。

・さらに、悪い姿勢は放置してもなかなか改善されないこと。

また、加齢とともに自然に悪くなる可能性があることを説明して、健康維持するために姿勢管理が重要なことも伝えてください。

・長期に患っておられる場合は、姿勢の変化は時間がかかっていることを説明し、戻りが生じやすいので、早期回復のためにも計画的な施術の必要性を教えてあげましょう。

・透過スライダーの動かすスピードを工夫すると違いが見えやすくなります。

身体が軽くなったことを体感していただいて、喜びを共有してください。

※良い評価があったときは、iPadの画面収録機能を使用して、合成比較している動画（無音）を収録し、後からLINEで患者さんに送ってあげると、紹介のきっかけになることがあります。「姿勢の話」や、配信動画に添付している画像「姿勢リセット後のアドバイス」は、サポート [導入説明] の②活用法に掲載しています。

[〈目次に戻る〉](#)

セルフケアとしてアドバイスしている話

肉体的なケアと心のケアに分けてアドバイスしています。

肉体的ケアとしては、イーファスのストレッチやヨガ動画、ウォーキングを基本アドバイスし、心のケアとして「治癒力の高め方」を話しています。

心のケアでは、まず色心不二などの話から、自身の心の方向性を変えることが治癒力を向上させるポイントであることを説明し、特に施術をしても、悪い方向へ戻ってしまう原因として、気持ちの持ち方が大きく関わっていることを理解してもらうようにしています。

施術効果を最大に働かせ、『治癒力』の働きを高めるために、『穏やかな気持ち』を保つことを心掛けてもらってください。

治癒力は、気持ちが穏やかで、優しく、積極的で、明るく、プラスな方向にある時に良く働き。怒り、失意、怨みなどのマイナスな方向にある時は、著しく治癒力の働きは悪くなります。

〈患者さんへの配布資料〉

患者さんには、別紙「患者配布用セルフケア資料」を渡しています。

参考になれば幸いです。

〈資料掲載場所〉 導入説明 → ②イーファス活用法

〈配布方法〉

セルフケア配信機能で閲覧していただくか、印刷して紙資料として渡しています。

セルフケア配信機能で送る場合は、「ADL（日常生活ケア）」でを入れれば配信することができます。

※オリジナルの資料は、「資料を追加」して登録配信することができますので、サポートの導入説明の中の②イーファス活用法を参照してください。

[〈目次に戻る〉](#)

〈補足〉心のセルフケアで参考にしている資料

〈参考書籍〉

「心と体の本当の関係」(幸福の科学出版)

「ザ・ヒーリングパワー」(幸福の科学出版)

「奇跡のガン克服法」(幸福の科学出版)

「ストレス・フリーの幸福論」(幸福の科学出版)

[〈目次に戻る〉](#)